

【兵庫県豊岡市】
端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	5,595 人	5,383 人	5,191 人	4,926 人	4,690 人
② 予備機を含む 整備上限台数	6,434 台	6,190 台	5,969 台	5,664 台	5,393 台
③ 整備台数 (予備機除く)	0 台	2,179 台	3,684 台	0 台	0 台
④ ③のうち 基金事業によるもの	0 台	1,964 台	3,311 台	0 台	0 台
⑤ 累積更新率	0 %	36.4 %	100 %	100 %	100 %
⑥ 予備機整備台数	0 台	0 台	0 台	0 台	0 台
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0 台	0 台	0 台	0 台	0 台
⑧予備機整備率	0 %	0 %	0 %	0 %	0 %

端末の整備・更新の考え方

GIGA第1期において整備した端末は、積極的な活用や経年劣化により故障件数が増加していることから、令和7年度に中学校端末、令和8年度に小学校端末を一斉に更新する。

なお、将来的に児童生徒数の減少が見込まれることから、予備機は整備しない。

更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について

○対象台数：2,202台（中学校）＋4,255台（小学校）

○処分方法（予定）

- ・使用済端末を公共施設や福祉施設など地域で再利用 : 100台程度
- ・小型家電リサイクル法の認定事業者にて再使用・再資源化を委託 : 6,357台
- ・資源有効利用促進法の製造事業者にて再使用・再資源化を委託 : 0台
- ・その他（ ） : 0台

○端末のデータの消去方法 ※いずれかに○を付ける。

- ・自治体の職員が行う
- ・処分事業者へ委託する

○スケジュール（予定）

区分	中学校	小学校
新規購入端末の使用開始	令和8年3月	令和9年1月
処分事業者 選定	令和8年12月	令和9年6月
使用済端末の事業者への引き渡し	令和9年3月	令和9年9月

○その他特記事項

特になし

【兵庫県豊岡市】
ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合（％）

「学校のネットワークの現状について（文科省・令和6年4月）」で示された学校規模ごとの当面の推奨帯域を確保できている学校は、31校中26校（83.8％）である。

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

(1) ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

実施年度	実績・スケジュール
令和3年度	専門業者によるネットワーク調査を実施。 ネットワーク調査の結果を受けて、児童生徒数が多く、既存のネットワークでは速度が確保できない学校について、ローカルブレイクアウトを実施。 令和3年度対象校：五荘小学校、豊岡南中学校、出石中学校
令和4年度	ネットワーク調査の結果を受けて、児童生徒数が多く、既存のネットワークでは速度が確保できない学校について、ローカルブレイクアウトを実施。 令和4年度対象校：豊岡小学校、八条小学校、日高小学校、弘道小学校、豊岡北中学校、日高東中学校
令和5年度	学校内でネットワークに繋がりにくいエリアについて、無線LANアクセスポイントの増設を実施。
令和6年度	
令和7年度	全校の帯域調査を実施予定。 帯域調査の結果、推奨帯域を確保できていない学校（抽出）について、専門業者によるネットワーク調査を実施して原因を分析、解消方法を検討。
令和8年度	ネットワーク速度の確保に向けた対策を実施。 実施後、検証のために全校の帯域調査を実施予定。

(2) ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

令和7年度中にネットワーク調査の結果を踏まえて原因を分析して解消方法を検討し、令和8年度以降に対策を実施する。

【兵庫県豊岡市】 校務DX計画

1. 学校内の連絡のデジタル化について

教職員一人ひとりにアカウントが付与されており、クラウドサービスを活用できる環境となっている。職員会議等の資料をクラウド上で共有し、ペーパーレス化を進めている学校が多くある。また、日々の連絡・調整やスケジュールの共有にクラウドサービスを活用する学校が徐々に増えてきている。

このようなクラウドサービスの活用状況は学校によって異なるため、ICT担当教員の連絡会議やICT研修会の場で好事例を共有し、さらなる活用を推進する。

2. 学校と保護者間のデジタル化について

児童生徒の欠席等の連絡や、各種たよりの配布、アンケート調査の実施・集計などにクラウドサービスを活用する学校が増えてきている。

保護者との日程調整にクラウドサービスを活用したり、各種説明会等をオンラインで開催している学校は少数のため、保護者側の機器・ネットワーク環境も確認しながら、実態に応じて活用を推進する。

3. 教職員と児童生徒間のデジタル化について

デジタルドリル教材を導入し、1人1台端末で学べる環境が整備されており、児童生徒の個に応じた学習に取り組んでいる。

令和6年度には、教職員の授業運営をサポートする授業支援システムを試験的に導入し、効果の検証を行った。

4. 次世代校務デジタル化に向けた環境整備について

令和6年度に試験的に導入した授業支援システムを、令和7年度から全校に本格導入する。これにより、「協働的な学び」のさらなる充実が図れるほか、同様に令和7年度から、定期テストのデジタル採点システムを導入し、教職員の負担軽減と事務の効率化を推進する。

また、高度なデジタル機器や新しいシステムを活用するためには、教職員のスキルアップが必要となることから、引き続きICT研修会の機会を設け、教職員のICT機器の操作スキル、システムの活用スキルの向上を推進する。

【兵庫県豊岡市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

令和4年度に策定した豊岡市情報教育指針「小学校・中学校で身につけさせたい情報活用能力」に基づき、GIGAスクール構想等により整備されたICT環境を適切に活用し、「これまでの教育実践と最先端のICTのベストミックス」をめざし、各教科における豊かな学びの充実を図る。そのために、授業における効果的なICTの活用指導力及び情報モラル指導力の向上、プログラミング教育の充実に向けた計画的で実践的な研修を行う。

さらに、子どもが効果的にICTを活用し、情報活用の実践力、情報の科学的理解、情報社会に参画する態度といった情報活用能力の育成に向けた取組を推進する。

2. GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想がスタートし、令和2年度に市内の全小中学校に1人1台端末と無線LAN環境を整備した。あわせて、GIGAスクール運営支援センターを設置し、ICT機器の活用支援や故障・トラブルの際のサポート体制を整えた。

1人1台端末を「まずは使ってみる」というところから、段階的に活用が進むように、教職員向けのICT研修を計画的に実施するなどして、1人1台端末の活用が進んだ学校もあったが、あまり進んでいない学校もある状況。教職員間でも活用状況に差があり、すべての児童生徒に個別最適な学びや協働的な学びを実現するには至っていない。

3. 1人1台端末の利活用方策

GIGA第1期で整備した端末については、令和7年度に中学校端末、令和8年度に小学校端末を一斉更新し、これまで整備したICT環境を引き続き維持していくとともに、クラウドサービスの活用が拡大することが予想されることから、より大容量のデータ通信にも耐えるネットワーク環境の整備を進める。

現在、課題となっている学校や教職員間の活用状況の格差については、ICT研修等を充実させ、教育委員会と学校現場が一丸となって改善を目指し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向かうように働きかけていく。

また、希望する不登校児童生徒への授業のオンライン配信や、特別な支援を必要としている児童生徒に対してICT機器を効果的に活用することで、児童生徒一人ひとりの学びの機会を保障するとともに、誰一人取り残さない学びを目指す。

これらを実行に移すため、GIGAスクール運営支援センターによる学校・教職員へのサポート体制を引き続き維持し、GIGA第2期の端末更新をスムーズに実施するとともに、新たに導入する授業支援システムとデジタル採点システムが最大限活用できるよう支援する。